

萩城（指月城）は、江戸時代を通じて長門と周防の藩主であった、1603年に追いやられていた毛利氏によって1604年に築城された。250年間毛利氏の政治の中心だった。指月山に築城された萩城は、攻撃するのが難しい設計だった。3つの濠、武士居住地区、巨大な石垣、多くの城門を通過しなければならなかった。さらに指月山の頂上に、城側の最後の砦ある要塞があった。

しかし、1868年武士の時代の終焉で、前萩城主は、その領地と城を放棄するだけでなく、過去の象徴であった城郭も撤去する先導もした。1874年城の解体、その所有地も、数年のうちに寄付或いは売却した。

現在、萩城の跡はユネスコ世界遺産（2015）に登録され、国立史跡（1951）に指定された。現在は指月公園として一般に公開されている。